

令和元年 9 月 6 日

第 9 回定例会
議事録

文京区教育委員会

文京区教育委員会議事録

第 10 号

令和元年 第9回 定例会

日時：令和元年9月6日（金）午後2時

場所：教育委員会室

「出席」	教 育 長	加 藤 裕 一
	教育長職務代理者	清 水 俊 明
	委 員	田 嶋 幸 三
	委 員	坪 井 節 子

「説明のために出席した教育局職員」	教育推進部長	山 崎 克 己
	教育総務課長	吉 田 雄 大
	学務課長	木 村 健
	教育推進部副参事	岩 田 雅 治
	教育指導課長	松 原 修
	児童青少年課長	中 島 一 浩
	教育センター所長	矢 島 孝 幸
	真砂中央図書館長	内 藤 剛 一

「書記」	庶務係長	渡 部 雅 弘
	庶務係主事	大 塚 功

令和元年

第9回教育委員会定例会

令和元年9月6日（火）午後2時

場 所 教育委員会室

議事録署名人 坪井節子委員

第1 議事録の承認

議事録第7号（令和元年第7回定例会）

第2 議案の審議

第41号議案 「第23回視聴覚教育総合全国大会・第70回放送教育研究会全国大会」の
後援名義使用承認について

第3 報告事項

（1）叙勲候補者の推薦について（資料第1号・非公表）

（2）文京区立少年自然の家八ヶ岳高原学園設備改修及び浴室棟等改築計画について
（資料第2号）

（3）文京区立大塚小学校教室等増設計画について（資料第3号）

（4）平成31年度全国学力・学習状況調査結果及び平成31年度文京区学習内容定着状況調
査結果について（資料第4号）

第3 その他の事項

《参考資料》事業（行事）実施状況及び各施設の利用状況等

「開 会」

(14:11)

○加藤教育長 それでは、第9回教育委員会定例会を始めさせていただきます。

まず、出席状況から確認させていただきます。本日は小川委員が欠席です。理事者は全員出席しております。

本日の議事録署名人でございますが、坪井委員にお願いしたいと思っております。よろしくお願いいたします。

(はい)

第1 議事録の承認

議事録第7号（令和元年第7回定例会）

○加藤教育長 それでは、議事日程に入らせていただきます。

第1「議事録の承認」です。議事録第7号がお手元にあると思います。事前にご確認いただいておりますが、なお、訂正がありましたら、この会の終了までにお申し出いただければと思います。よろしくお願いいたします。

第2 議案の審議

第41号議案「第23回視聴覚教育総合全国大会・第70回放送教育研究会全国大会」の後援名義使用承認について

○加藤教育長 それでは、議案の審議に入らせていただきます。本日は1件でございます。

第41号議案「第23回視聴覚教育総合全国大会・第70回放送教育研究会全国大会」の後援名義使用承認について、この件について説明をお願いいたします。

○教育推進部長 ただいま議題となりました第41号議案、「第23回視聴覚教育総合全国大会・第70回放送教育研究会全国大会合同大会」の後援名義使用承認につきまして、提案理由をご説明いたします。

1 ページの後援名義使用申請書をご覧ください。

申請団体は、全国放送教育研究会連盟・一般財団法人日本視聴覚教育協会。

代表者は、銭谷眞美、生田孝至でございます。合同大会であるため、連名での申請となっております。

事業名は、「第 23 回視聴覚教育総合全国大会・第 70 回放送教育研究会全国大会合同大会」。

令和元年 11 月 8 日及び 9 日の開催を予定しております。

実施場所は、区内のたんぼぼ保育園、湯島小学校、茗台中学校、そのほか、板橋区・台東区・さいたま市の学校、パナソニックセンター東京でございます。

本事業は、視聴覚教育及び放送教育の各研究会がこれまでの研究をさらに深め、それぞれのよさを認識し、教職員等の資質や授業力の向上につなげるものでございます。

対象は、学校教育関係者、社会教育関係者、情報通信企業関係者。

参加費は、資料代 3000 円、OB・OG・一般・大学生は 1000 円です。

このほか、資料といたしまして、2～3 ページに実施要綱、4～5 ページに予算書、6～25 ページに会則及び役員名簿、26、27 ページに実績一覧がございます。

以上の内容を後援名義等使用承認要綱の規定に照らし、後援名義の使用を承認したいと考えるものでございます。よろしくご審議の上、ご決定賜りますようお願い申し上げます。

○加藤教育長 この件につきまして、ご意見、ご質問等ございますでしょうか。

○坪井委員 この企画自体、特に問題はないと思っておりますが、視聴覚教育の小学校、中学校の現状について、きちっと情報をいただいてなかったのも、もしお話しただければありがたいと思います。というのは、メディアを使つての教育は、昔、NHKの教育テレビがいろいろな小学生向け、中学生向けの番組をつくって、それを使つて授業するということがあった。今は恐らくテレビを使う教育は余りないのではないかと思われる。それこそ ICT を使うという別の形になっているんじゃないかなと思います。視聴覚教育はテレビを使う教育のことなのか、ネットを使うような教育のことなのか。とにかく NHK が関与しているということは放送を使う教育ということなのかなと思いつつなんですが、その辺の実態を教えてくださいと思います。

○教育指導課長 視聴覚は、昔はそういったテレビを活用したり、OHPとか、実物投影機のようなもの、スライドなどを授業の中で生かしていくことがございましたけれども、ご指摘があったように、最近でいうとパソコン等の活用といったところはかなりシフトしてきているところでございます。

そういった内容に加えて、メディアリテラシーのようなことも授業の中では取り扱うというふう聞いております。

○教育総務課長 初めにお話しすればよかったんですが、事業内容のところの対象者が、予定参加人員 200 人と書いてありますけれども、400 人の誤りでございますので、修正をお願いいたします。

○坪井委員　こういう放送教育研究会というのは、NHKが助成金を今も出してやっていますね。これは放送教育を使う研究なんですか。ネットを使うのではなくて。そういう意味の趣旨なんですか。

○教育総務課長　こちらのほうでお話を聞いているところだと、そこまで厳密に分けているということではないと事務局のほうから聞いてございます。今、坪井委員おっしゃった形のは、学校現場では、教育指導課長がお話ししたとおりですが、活動としては、かなり広範囲に、あるいは入り組んでいるので、合同大会にしてやるということも、私どもでは聞いています。

○加藤教育長　1ページの事業内容の目的のところにかかれてるように「ネットワーク社会におけるメディアとヒューマンコミュニケーション」をテーマに研究を進めていくというものです。その下にICTのこと、先ほど指導課長のほうから説明がありましたが、プログラミングとか、そういった広く現代に合うような形で今回の事業を進めていくという内容となっています。

○清水委員　参加費のところで資料代3000円で、OB・OG・一般・大学生が1000円。大学生が1000円というのはわかりますが、OB・OGというのは協会のOB・OGということなのか。あと、一般というのはどのような人を指すのかというのをちょっと教えていただきたい。

○教育総務課長　そこに書いてあるOB・OGは、各研究会でのOB・OGというところで、主なところとしては、こういった研究会に携わっていらっしゃる教員とか教育関係者の方たちを指すと聞いてございます。

○清水委員　一般については。

○教育総務課長　一般につきましては、広くこういったことに関心があるような方についても、こういったところで話を聞くということがございますので、そういった方たち。ただ、例えば研究会に入っていない教職員の方たちも一般になると聞いてございます。

○清水委員　教育関係者じゃない人が一般ということなんですかね。そうすると、5ページの収入の部で、予算が3000円×200となっていて、1000円の部の見積もりがないのかなと思います。

○教育総務課長　この見積もりでは、一般の方が参加するというのは余り想定してないということとでございます。200名に対して15名なので、余り一般の方は想定してない形だと思います。

○清水委員　もう1つ、他団体の共催、後援などのところで、たくさんここに書いてあって、文京区教育委員会もここに入っています。これは恐らく申請中ということだと思います。これはどうなんですか。「申請中、承認済の別」と書いてあるので、これをいっしょくたに、「(申請中含む)」みた

いな形でいいのかなどか。

○教育総務課長 書き方については、私、事務局のほうともお話し合いをさせていただいたんですが、申請中なのが、内閣府と台東区の教育委員会、文京区ということです。その辺は、「(申請中を含む)」ということで、口頭で質問があったときに答えればいいのかなどという形で、事務局のほうと申請団体さんのほうとは調整をして、こういった表記にさせていただいたところでございます。

○坪井委員 聞き逃しちゃったのかもしれませんが。400名になると、参加費のほうの収入が変わるということでしたか。3000円×200名で、参加費が収入の部で出ています。400名に訂正するとおっしゃった？

○教育総務課長 収入の部で、それぞれで、200名、200名なので、トータルで400名ということですね。こちらは、合同なんですけど、いろいろ助成金の関係とかがあるので、予算書については別々に出していただいています。それで、この申請団体のほうもうっかり間違えて200と書きちゃったんですが、200、200で400でしょうということを確認はとったところです。

○加藤教育長 ほかはよろしいでしょうか。

それでは、お諮り申し上げます。ただいまの件につきまして、提案理由のとおりお認めしてもよろしいでしょうか。

(異議なし)

○加藤教育長 それでは、そのように決定させていただきます。

3 報告事項

(1) 叙勲等候補者の推薦について

○加藤教育長 続きまして、報告事項に入らせていただきます。本日は4件です。

まず1件目です。「叙勲等候補者の推薦について」、この件について説明をお願いいたします。

○教育総務課長 それでは、資料第1号に基づきまして、叙勲等候補者の推薦について、ご報告申し上げます。

候補者の氏名、職名等については、資料に記載しているとおりでございますが、現在、推薦段階であることから、資料の取り扱いは非開示とさせていただいております。このため、傍聴の方々には、この資料についてはお配りをしてございません。ご了承ください。したがって、この場での氏名等の読み上げは省略とさせていただきますので、よろしくお願ひ申し上げます。推薦候補者等についてはご覧のとおりの内容でございます。

○加藤教育長 ただいまの説明につきまして、ご意見、ご質問等ございますでしょうか。
名前のほうはこの場で非開示ということですが、それ以外の部分で、よろしいですか。

（２）文京区立少年自然の家八ヶ岳高原学園設備改修及び浴室棟等改築計画について

○加藤教育長 続きまして、２件目になります。「文京区立少年自然の家八ヶ岳高原学園設備改修及び浴室棟等改築計画について」、この件について説明をお願いいたします。

○教育推進部副参事 資料第２号をご覧ください。文京区立少年自然の家八ヶ岳高原学園設備改修及び浴室棟等改築計画について、ご報告させていただきます。

八ヶ岳高原学園ですが、外壁改修や防水工事など、これまで改修をさまざま実施してきたところでございますが、建設から４０年以上たっておりまして、設備関係の劣化が著しく、故障の際の廃番のものが多くなっておりまして、改修、修繕がなかなか困難な状況となっております。また、浴室棟の老朽化もかなり目立ってきておりまして、これらを改善するとともに、トイレを水洗化し、宿泊施設のバリアフリー化をあわせて行っていくことを計画しているところでございます。

まず、１「対象施設・所在地」でございまして、長野県南佐久郡南牧村でございまして。

２「建物概要」でございまして、敷地面積等記載のとおりでございまして。

３「改修範囲及び工事概要」でございまして、改修範囲は、（１）管理棟、宿泊棟、浴室棟となっております。工事概要は、電気設備工事、機械設備工事、浴室棟改築工事、その他改修工事となっております。

具体的な工事の中身でございまして、１枚めくっていただきますと、図面の「（別紙）改修等計画（案）」がついてございまして、計画図面の中の中央上ぐらいに、２階浴室平面図、浴室棟改築というのがございます。右上に目を移していただきますと既存トイレ改修、右下に目を移していただきますとバリアフリー改修、左下のほうに、電気・機械設備の改修ということで記載してございます。

浴室棟の改修でございまして、もともとあった建物を一旦取り壊しまして、同じ場所に浴室棟を建てかえるものでございます。

既存トイレ改修でございまして、現在、水洗ではないところを全てのトイレを水洗といたします。また、浴室棟のトイレの１カ所を２階建てに増築しまして、加えて、その部分に、誰でもトイレを設置することとしております。

また、バリアフリー改修でございまして、宿泊棟１階、２階の１室ずつを段差解消、フローリング化をしていきます。さらにエレベーターを設置し、昇降口、正面玄関にスロープを設けてまいります。

ます。

最後に、電気・機械設備の改修ですが、老朽化したボイラーを撤去いたしまして、ガス式のものに交換、柔軟な設備運転を行えるようにしてまいります。寒冷地でございますことを配慮し、日々のメンテナンス等も容易にすることを図ってまいります。

最後ですけれども、「スケジュール」でございます。実施設計は、平成31年4月から令和2年3月で、ただいま行っております。改修工事は、令和2年10月から令和4年4月で実施する予定です。所在地が寒冷地ということもありまして、冬季は大きな工事が行えないものと想定しております。実質の工事期間といたしましては、8カ月から10カ月ぐらいを想定しております。

報告は以上になります。

○加藤教育長 この期間、八ヶ岳での事業は、今、別でできるように準備しているのですか。

○学務課長 令和3年度におきましては、工事期間中になりますので、移動教室をその後も行うために、近隣のホテルを借りて対応する手続をしているところでございます。

○加藤教育長 ただいまの説明につきまして、ご意見、ご質問等ございますでしょうか。

○坪井委員 建物概要の(4)、構造・階数とありますが、階数は2階ですか。

○教育推進部副参事 2階です。

○加藤教育長 ほかにございますでしょうか。よろしいでしょうか。

(3) 文京区立大塚小学校教室等増設計画について

○加藤教育長 それでは、3点目になります。「文京区立大塚小学校教室等増築計画について」、この件について説明をお願いいたします。

○教育推進部副参事 続きまして、資料第3号をお開きください。文京区立大塚小学校教室等増築計画について、ご報告させていただきます。

文京区では、これまでも児童数増に伴いまして、学校の諸室を普通教室化することで、普通教室が不足しないように対応してきているところでございます。大塚小学校では、近年、児童数が増加傾向にございまして、このまま増加傾向が続けば、令和4年4月には現在の校舎にある諸室を全て普通教室化するだけでは普通教室が不足することが見込まれています。それに対応するために、大塚小学校の敷地内に、概要はこの後お話ししますが、4階建てのものを増築し、令和4年の児童の受け入れに対応できるように現在検討を計画しているところでございます。

1 「対象施設・所在地」は、大塚小学校、大塚育成室。大塚四丁目でございます。

2 「用途地域等」は記載のとおりでございます。

(3) 増築概要でございますが、地上4階建てで、教室等の諸室の規模は350平米を予定しております。設置諸室は、普通教室、育成室、教育相談室などを予定しております。また、増築部分にはエレベーターをつくる予定としてございます。

(4) 既存建築物改修概要でございますが、育成室、学びの教室、サーバー室などを普通教室化していくものでございます。これらを計画していく上で、敷地内のどこに増築すれば必要な諸室を確保でき、また、学校教育に影響を及ぼさないかという検討を進めております。次ページに、文京区立大塚小学校増築校舎配置図(案)を添付してございます。この図面の網かけの部分で増築を検討しているところでございます。

諸室の配置の検討につきましては、関係法令を確認しながらただいま進めているところでございまして、現在お示しするものがないのは申しわけないところでございます。

最後に、戻っていただき、「スケジュール」でございます。現在、令和元年6月から令和2年5月までに設計を実施しております。当初3月までの目途でございましたが、5月まで延びているところでございます。増築改修工事でございますが、令和2年12月から令和4年の3月を目途に工事を進めていき、令和4年4月の段階で普通教室が足りないことがないように取り組みを進めているところでございます。

報告は以上になります。

○加藤教育長 それでは、ご質問をお願いします。

○田嶋委員 どういう理由でここがふえていて、将来的にもこれが本当に維持できるのか、児童数がずっと続くのか、その辺の見きわめはされているのでしょうか。

○教育推進部副参事 周辺の状況でございますが、大きいマンション等がボコボコ建っているわけではないんですが、地域を見て回りますと、中規模、小規模なマンションは少しふえてきているようにお見受けします。ただ、明確にそれがダイレクトに影響しているかというのは、申しわけございません、そこまで把握してないところでございます。

今後、これがそのまま維持できるのかということでございます。現在、大塚小学校は8学級で運営しているところですが、増築をすれば、最大14クラスまで教室を確保することができます。その場合、いろんな教室を会議室と兼用とかしていただくことは必要になってきますが、例えば、1年、2年が3学級、その上が全て2学級で14クラス確保できます。現在、1年、2年が2クラス、それ以降が1クラスずつで8学級でございますので、全て1つずつふえても対応可能ということで、今

計画をしているところでございます。

○坪井委員 今の普通教室の数を聞きますと、増築部分に普通教室を2つつくるけれども、既存建物の中の特別教室も普通教室化することも想定しているということなんですか。

○教育推進部副参事 特別教室につきましては、普通教室化することは現状考えてございません。ただ、現状ある育成室を今の場所から増築部分に動かしていただいたり、教育相談室をそちらのほうに動かしていただいたりする。あとは、育成室をくっつけるというわけじゃなくて、教育相談室と会議室を1つにさせていただくとか、そういう運用上のお願いも学校と相談しながら今後進めていくところでございます。

○坪井委員 それで14教室ができるということですね。

もう1つ、各小学校が快適化工事をずっとしていたと思います。大塚小学校はそれには。

○教育推進部副参事 終わっています。

○坪井委員 終わって、その上でこれをするということですね。

○清水委員 現在グラウンドの部分にこれを増築するということですね。グラウンドが狭くなるということに関しての何か問題はありますか。

○教育推進部副参事 委員ご指摘のように、グラウンドの一部侵食せざるを得ない状況でございます。トラックの部分でどうしても少しさわってしまうところがございます。現在どのようにトラックを確保できるのかは、まだ諸室を全部決め切れてございませんので、最終、諸室を全部決め切った上で、グラウンド、トラックの形状等についても、学校と相談しながら検討を進めていくところでございます。

○加藤教育長 ほかにいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

(4) 平成31年度全国学力・学習状況調査結果及び平成31年度文京区学習内容定着状況調査結果について

○加藤教育長 4点目に移りたいと思います。「平成31年度全国学力・学習状況調査結果及び平成31年度文京区学習内容定着状況調査結果について」、教育指導課長、お願いします。

○教育指導課長 資料第4号に基づきまして、平成31年度全国学力・学習状況調査結果及び平成31年度文京区学習内容定着状況調査結果について、ご報告をいたします。

初めに、「文京区『学習内容定着状況調査』」でございます。

1ページをご覧ください。調査の趣旨は、そこにあるとおりでございます。

2の調査対象は、小学校第4学年の児童及び中学校第1学年の生徒でございます。

最初に小学校4年生の結果について、区の平均正答率と課題の見られた小問、その改善策について、ご説明をいたします。

国語でございますが、正答率は79.0%で、全国を8.8ポイント、目標値を11.0ポイント上回っております。課題の見られた小問は3つございますけれども、全国や目標値との比較でいえば、全て上回っているところでございます。

改善といたしまして、ローマ字につきましては、授業で取り扱う時間が非常に限られておりますので、日常的にローマ字表記を意識させたり、ローマ字の有用性に気づかせたりする必要がございます。国語科に限らず、総合的な学習の時間等、コンピューターを利用する際などに指導をまいります。

次に、社会でございます。正答率は82.1%、全国を4.9ポイント、目標値を11.2ポイント上回っております。課題の見られた小問③の店で働く人でございますが、店の利用状況について地域の地図をもとに、その背景について考察し、表現する問題でございます。改善策といたしましては、複数の資料から読み取った情報を相互に関連づけて考える経験をさせていく必要がございます。国語でも、表と文章の関連づけが課題になっておりましたが、やはり子どもが主体的に考える活動にしっかりと取り組んでいく必要があるところでございます。

算数でございます。正答率は80.4%で、全国を5.5ポイント、目標値を13.2ポイント上回っております。課題の見られた小問の①は、重さでございます。身近にあるものの重さがおおよそどれぐらいなのか、量感を問う問題でございます。改善策といたしましては、身近にあるものを対象に事前に重さを予想させ、その後実際に測定する活動をふやし、児童の関心を高めてまいります。

おめくりいただきまして、2ページ、理科でございます。4教科の中で全国平均や目標値との差が最も小さくなっています。区の正答率は76.8%で、全国を3.9ポイント、目標値を6.7ポイント上回っております。課題の見られた小問の①は、植物の育ち方でございます。ハウセンカの花を咲かせた後には実ができるところを、種や種子ということが見られました。中学校でも同様の課題がございましたが、用語の正しい理解を指導してまいります。

次に、質問紙の調査と学力の関連でございます。これは小学校と中学校は同様の傾向となっております。具体的には、自己肯定感が高い児童・生徒、話し合い活動で活発な児童・生徒は平均正答率が高くなっております。逆に見れば、平均正答率が高い児童・生徒は、自己肯定感が高く、話し合い活動にも積極的であるということが言えます。教員は、子どもたちが自信を持って学習に取り

組むことができるように、子どもたちを褒めたり、認めたりすることを大切に指導しておりますけれども、引き続き、そのあたりに力を入れてまいります。

次に、中学校第1学年の結果でございます。3ページをご覧ください。国語の正答率は75.6%で、全国を6.8%、目標値を9.4ポイント上回っております。課題の見られた小問の①は、話の内容の聞き取りで、昨年度と同様の傾向となっております。小学校でも、話すときや聞くときの観点を整理することが改善策として挙げられておりましたけれども、中学校でも5W1Hを押さえながら、必要に応じてメモをとる練習を経験させる必要がございます。

次に、社会の正答率でございますけれども、68.7%でございます。全国を6.6ポイント、目標値を7.5ポイント上回っております。課題の見られた小問は、そこにあるとおりですが、太平洋ベルト、参勤交代、国際連合など、用語等の知識、理解とともに、やはり資料をもとに考えたり、自分たちの生活との関連で捉えたりしながら、理解を深めることが大切となります。

次に、数学です。区の正答率は76.2%、全国を6.5ポイント、目標値を8.7ポイント上回っております。課題の見られた小問は、そこにあるとおりです。問題場面を図や表にあらわし、式やグラフと関連づけて考えさせたり、社会科と同様、資料から読み取った情報をもとに考える活動を継続的に行っていく必要がございます。

おめくりをいただきまして、4ページでございます。理科は、小学校と同様に、全国の平均や目標値の差が最も小さくなっております。正答率は68.8%で、全国を4.8ポイント、目標値を6.2ポイント上回っております。課題の見られた小問に、①の蒸散がございます。蒸発と書いた誤答が多く見られました。子どもたちにややなじみのない用語となりますが、こうした科学的な用語を使用して実験結果などを説明する機会をふやしてまいります。

続きまして、全国学力・学習状況調査でございます。5ページをご覧ください。調査の趣旨はそこにあるとおりでございます。調査対象は小学校第6学年児童及び中学校第3学年の生徒でございます。平成31年4月18日に実施をいたしまして、小学校は国語、算数の2教科、中学校は国語、数学、英語の3教科でございます。

昨年度までと大きな変更点が2点ございます。1点目といたしまして、これまで知識、技能等を見るA問題と、活用等を見るB問題に分かれて実施されておりましたけれども、今回からは統合されまして、知識、活用を一体的に問う問題となっております。

2点目といたしまして、中学校の英語に新たにスピーキングテストが導入されました。いわゆる4技能、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことを評価いたします。ただ、これが初年度という

こともございまして、文京区においては全校実施をいたしましたけれども、ICT環境の整備状況により、学校単位で実施しないことが認められているため、今年度は参考値としての表示になってございます。

まず、小学校でございます。国語、算数ともに、全国、東京都の平均正答率を上回ってございます。左側の観点別においても、右側の領域別においてもバランスよく得点していることがわかります。特徴的なところといたしましては、国語の話すこと、聞くことは、都と比べ11.3ポイント、国と比べ12.1ポイント上回っております。また、算数の量と測定では、都と比べ13.5ポイント、国と比べ18.1ポイント上回っております。

おめくりをいただきまして、7ページからは中学校でございます。こちら、国語、数学、英語ともに、全国、東京都の平均正答率を上回っております。特に今年度より新しく開始された英語では、東京都が全国トップクラスということでございますが、さらに本区は、東京都を7ポイント上回っており、知識及び活用する力について、おおむね学習指導要領の内容が身につけているものと考えられます。

特徴的なところといたしましては、国語の話すこと、聞くことは、都と比べ6ポイント、国と比べ8ポイント上回っております。数学の図形では、都と比べ12.4ポイント、国と比べ13.7ポイント上回っております。英語では、読むことは、都と比べ6.5ポイント、国と比べ10.2ポイント上回っているところでございます。

続きまして、児童・生徒質問紙でございます。10ページからが小学校でございます。

特徴的なところでは、11ページ(17)「家で自分で計画を立てて勉強していますか」については、「している」と回答した児童が、昨年の38.5%と比べ今年度は45.6%と伸び、自主的に学習している児童の割合がふえていることがわかります。

今年度新たに実施された項目の中に、(27)「5年生までに受けた授業で、コンピュータなどのICTをどの程度使用しましたか」、一番下(28)「授業でもっとコンピュータなどのICTを活用したいと思いませんか」がございしますが、(27)では、「ほぼ毎日」と回答した児童が21%、「週1回以上」と回答した児童が22%と、授業におけるICTの活用が進んでいることがわかります。また(28)では、「当てはまる」と回答した児童が68.7%と多く、ICTの活用を多くの児童が望んでいるということがわかります。

12ページからは中学校となります。

(5)「自分には、よいところがあると思いませんか」については、「当てはまる」と回答した生徒

が昨年度の 34.1%と比べ 35.5%、「どちらかといえば、当てはまる」と回答した生徒が昨年度の 43.8%から今年度 45.4%と向上し、自己肯定感の向上が見られます。

また(8)「将来の夢や目標を持っていますか」については、「当てはまる」と回答した生徒が、昨年度は 37.7%、今年度は 41.6%と向上し、自己肯定感の向上が、将来の夢や目標を持つことにつながっているというふうに考えられます。

ご報告は以上でございます。

○加藤教育長 ただいまの説明につきまして、ご意見、ご質問ございますでしょうか。

○清水委員 1 ページの算数のところで、課題の見られた小問の対策は、ほかのところを見てもよくわかりますが、「かけ算→思考の過程を文章でまとめたり、友達と説明し合ったりする活動を意図的に取り入れる」が、かけ算がこれから向上していくかということとどのように関係しているか、具体的に教えていただきたいんですが。

○教育指導課長 子どもたちが、自分が考えたことを文章でまとめたり、説明するのがなかなか難しいというところがございます。例えば、かけ算をつくっていくときに、別の計算なども利用しながらかけ算をどういうふうに考えるかを子どもたちが説明する場合、既にかけ算が計算できる子どもたちは、どうやってその方法を最初に考えたか忘れていくところがございます。最初にその学習をするときにしっかりと学んではいらるわけですが、時々そこを振り返ってみるような指導が必要であると捉えております。

○清水委員 決まり事じゃなくて、そのメカニズムから教えたほうがいいのかということですか。

理科が、文京区はほかとの差がないということですが、理科は差がつきにくいのか。分布がかなり接近している。つまり、スタンダード・デビエーションが小さいと差がつくにくくなってくると思います。そういう傾向があって、理科がそれほど差がないのか。あるいは本当に文京区の理科がもうひとつなのかということに関しては、いかがでしょうか。

○教育指導課長 他地区と比べて、極端に理科が悪いということではないと思いますが、理科の学習の場合、理科で出てくる用語が、ある学年で習ったときに、また次の学年で何度も出てくるかという、なかなか繰り返しは出てこない用語がございますので、学習したばかりのときにはわかっていたんだけど、しばらくすると忘れてしまうということがあります。先ほど、蒸散の例を出させていただきましたが、学習した直後は、蒸散という言葉についてわかっていたけれども、だんだん記憶が曖昧になったときに、日常的には蒸発という言葉を使っていますので、そういったところと勘違いしてしまうということは言えるかなと思います。

○坪井委員 調査趣旨なのですが、学習内容定着状況調査と全国学力・学習状況調査、どこが違うんですか。

○教育指導課長 全国のほうは、小学校6年生と中学校3年生で実施しているということです。4月ですので、完全に6年間と3年間ということではないんですが、ある程度小学校段階で子どもたちがどれぐらいの学習状況であるか、中学校の卒業段階でどういう学習状況であったかを見るために実施しているテストということになります。東京都と全国だけのテストでいいますと5年生、6年生、中学校の2年生、3年生のテストになりまして、4年生と中学校1年生のところは抜けたような形になりますので、そのあたりの連続性で、ただ、テストが違いますので、必ずしも単純に縦に比較できるということではないんですが、東京都と全国の学力調査がないところを、文京区は独自のテストで補っているところがございます。

○坪井委員 学習内容定着状況の全国というのが出ているということは全国もやっているということですね。

○教育指導課長 同じテストを文京区と同じような考え方で採用している自治体がございます、そういったものを業者が全国的に集約しているということがございます。

○坪井委員 ということは、現実に、4年生、5年生、6年生、中学生1、2、3、全国学力調査はほとんどされているということになるんですね。

○教育指導課長 さまざまな自治体で工夫をして学力の把握はしているかと思いますが、東京都でいうと、小学校5年生と中学校は2年生で行っております。他の道府県が同じような状況かというのは、それぞれかなと思います。あと、業者のテストを独自に取り込んでいる自治体もあると思いますので、何らかの形で、それぞれ工夫をして学力の状況は把握しているということがございます。

○坪井委員 業者テストと全国学力調査と、テストをやる主体が違うんですか。ごっちゃになっちゃって済みません。

○教育指導課長 4年生と中学校1年生は、文京区は業者のテストを採用しております。小学校5年生と中学校2年生については、東京都教育委員会が作成したテストになります。小学校6年生と中学校3年生は文部科学省で作成をした全国的な共通のテストということがございます。

○清水委員 10ページの質問(8)「将来の夢や目標を持っていますか」。中学校は昨年に比べてちょっといい傾向が出たと思います。小学校は、数値自体はそんな悪くないと思いますが、減っている、悪くなる傾向がずっと続いている。何か原因があるのでしょうか。

○教育指導課長 一固まりの数字として見たときに減少傾向にあるということですがけれども、1人

1人聞いてみるとさまざまな理由があるのかなと思います。ここ何年かで言うと、将来なくなってしまう仕事があるという報道がある中で、例えば、サッカー選手になりたいとか、野球選手になりたいというお子さんの場合は比較的目標を持ちやすいと思うんですが、そうでない場合に、職業のあり方みたいなものが今どんどん変わっていく世の中であって、小学生段階では夢や希望を明確には持ちづらいという面があるのかなというところでございます。中学生ぐらいになってくると、高校受験とか、成人に近くなってまいりますので、小学生に比べると、具体的な目標を持ちやすいという部分はあるのではないかと考えております。

第4 その他の事項

○加藤教育長 「その他の事項」は、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

以上をもちまして、用意した案件については全て終了です。

それでは、第9回定例会はこれをもって終了させていただきます。ありがとうございました。

(14 : 59)

令和元年9月6日

議事録署名人

教育長

委員